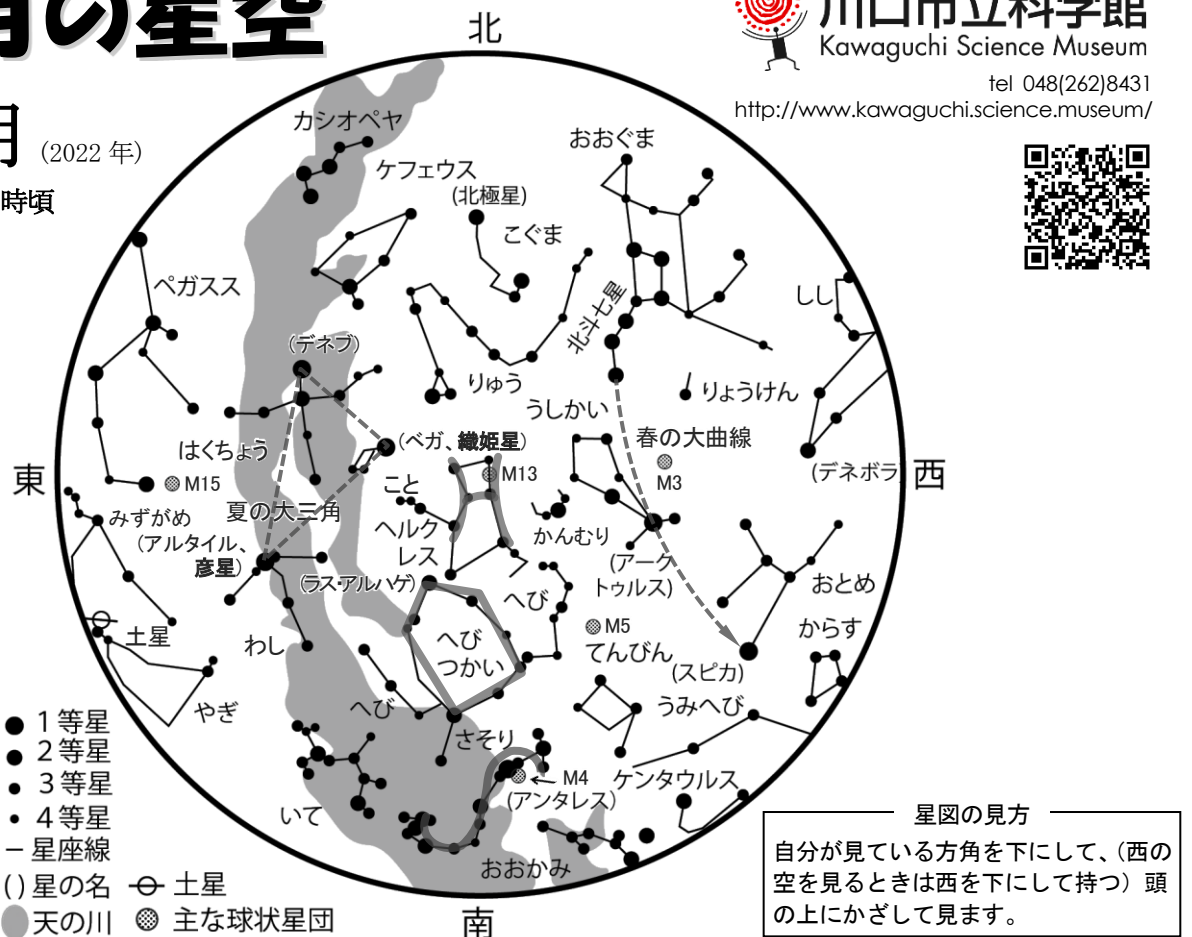


今月の星空

7月 (2022年)

中旬 21 時頃



月 齢 ①上弦 7日、○満月 14日、②下弦 20日、●新月 29日

惑星情報

金星 日の出前 東(おうし→オリオン→ふたご座 -4等)

木星 真夜中 東(くじら座 -2→-3等)

火星 日の出前 東(うお→おひつじ座 1→0等)

土星 真夜中 南東→南(やぎ座 1→0等)

☆夏の星座3選と七夕の輝星

南の空で見ごろを迎えている星座を地平線から見上げていきましょう(星図参照)。まずは、S形の整った星の並びが、オリオン座と並び美しいと称されるさそり座。神話では大神ゼウスの妃ヘラが遣わした猛毒の大きさそりです。その上には、ギリシャ神話の名医アスクレピオスが描かれたへびつかい座。2等星ラス・アルハゲを頂点とする、将棋の駒のような五角形が目印です。天頂付近にかけては、主に3等の星がH形に並ぶヘルクレス座。ヒドラ退治などの12の大冒険を成し遂げた勇者です。

そして、アスクレピオスとヘルクレスを露払いにして、夏の三大角と天の川が昇ってきました。夏の三大角の3つの1等星のうち、こと座のべがは織姫星、わし座のアルタイルが彦星です。七夕物語のとおり、織姫星は天の川の西の岸に、彦星は東の岸に輝きます。7月7日の七夕は平年では梅雨明け前ですが、元来は旧暦の行事です。現在の暦とはひと月ほどのずれがあり、今年は8月4日がその日に当たります(伝統的七夕)。この頃になると、七夕の星はより高く昇り、見つけやすくなります。

☆月の暦と条件の良い星空(14日 今年最大の満月)

14日は、年に12回ほどある満月の中で最も大きく見える(地球との距離が最も近い)満月です。今年最小の満月(1月18日)と比べると約12%大きく見えます。これは、月の軌道が楕円であることや太陽や地球の重力の影響で、地球との距離が常に変化*するためです。

*平均距離は約38万4千km。約35万6千km~約40万7千kmの間で変化します。

さて、いよいよ夏休みを迎え、じっくりと月や星を観察するチャンスとなります。まずは事前に月の暦(満ち欠け)を確認しましょう。特に空の暗い場所で、よりたくさんの星を観察する場合は、月明かりのない時間帯を選ぶことが重要です。29日の新月前後が理想ですが、表のとおり下弦(20日)以降であれば、月の出は夜遅い時間となり好条件となります。*月の出入の時刻等は、国立天文台暦計算室 <https://eco.mtk.nao.ac.jp/koyomi/>で確認ができます。

表 川口市での主な月の出(入)の時刻

日付	月 齢 (正午)	月の出(入)
7/14	15.0 満月	19:51
7/20	21.0 下弦	23:09
7/24	25.0	翌 1:18
7/29	0.4 新月	4:45
8/5	7.4 上弦	(22:44入)
8/12	14.4 満月	19:09